

防災・災害対策委員会

防災・災害対策委員会とは

ごあいさつ

お知らせ

防災知識

活動実績

活動報告書

マニュアル

議事録

キャラバン隊募集

▼ 2023年03月16日 報告会&予告会

3月16日18時～19時半 オンラインにて、 「1月22日防災イベント報告会&予告会」を開催

これまで交流のあった新潟、東京、山梨、栃木、千葉建築士会、神奈川県や各市の行政ご担当者、地域防災に取り組んでいらっしゃる59名のオンライン参加いただき「報告会&予告会」を開催いたしました。

【二部 予告会】

●意外と知らない「応急危険度判定」について「応急危険度判定」の目的と「り災証明」の違い

応急危険度判定とは、人命に危険を及ぼす余震等での倒壊や、落下物に注意を促し、二次災害を防止するための短期間で危険の度合いを判定するものです。

行政発行「罹災証明書」のための住家被害認定調査とは異なります。

○相模原市、川崎市、愛甲郡愛川町の「応急危険度判定」についての訓練や体制整備の状況を紹介。

・今後、応急危険度判定を実施のための実地訓練や研修、災害時の体制整備を県市、建築関係団体と協力して整え、連携していく必要があります。

○1995年阪神淡路大震災時「応急危険度判定」 (村島担当常任理事)



[時事通信ニュース速報]記事

1/19 11:38:◎被災地の建物の危険度を緊急検査

= 静岡、神奈川などの応援部隊活躍 =

検査で二次災害の恐れがあると判断された建物には「使用禁止」と書いた紙を張り、注意喚起する。

被災地でのリアルな経験者の話は説得力があり、災害時の想像を絶する混乱した状況を、少しでもイメージする機会となり、また、ぜひ話を聞きたいとのリクエストもありました。

●「浸水被害住宅の 応急・復旧対策 実用的な 技術マニュアル」について

現在、連合会で編集しているマニュアルの考え方、内容について予告いたしました。

- ・実体験を通じた 応急処置や復旧・復興対応の知見をもつ被災地の建築士に学ぶ
- ・通常の 建築士活動や職能だけでは対応が難しい、予想外の現場の緊急対応や行動について、被災地での実体験・貴重なデータを集めた**実用的マニュアル**
- ・今後の防災や災害復興に役立つ 応急処置の参考となる効果的で信頼性の高い情報提供
- ・水害特有の応急処置や応急修理等の応急復旧工事の手順や基本的な技術的なアドバイスのよりどころとなるマニュアル
- ・被災現場でのボランティアが注意する必要がある現場での撤去事例について
- ・生活再建での住宅相談員が参考にできる相談員の心得と相談事例集を掲載
- ・水害後の復旧までの流れと注意点、「対応すべき事項」のそれぞれの作業の注意点や作業のポイント
- 被災者生活再建のための支援制度と支援活動の大切さと課題について、少しだけ紹介いたしました。



被災者支援カード 使える支援制度のカードを探しましょう

令和4年8月12日版

被災者支援カード 2021 弁護士事務所

<p>災害直後</p> <p>（保険の確認・お金の貸付も）</p> <p>応急修理制度 （災害救助法）</p> <p>大規模半壊・半壊の世帯 65.5万円 (2022)</p> <p>準半壊の世帯 31.8万円</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>使うと修理後は仮設住宅に入らなくなるので修理した自宅ですべて生活できる世帯</p> <p>業者に修理を頼む前に自治体に相談</p>	<p>基礎支援金 （被災者生活再建支援法）</p> <p>①全壊 ②半壊以上の建物等を解体 ③長期避難世帯</p> <p>100万円 大規模半壊 50万円</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>左の条件を満たす世帯（賃借人も）。特に③は不明なら要相談（単身は4分3の金額）</p> <p>所得条件なし、お金の使い道も制限なし</p>	<p>災害援護資金貸付 （災害弔慰金法）</p> <p>借入最大350万円 （全壊250万/半壊170万/家財3分の1の損害150万など）</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>災害で負傷したり、家財の損害、住宅の全半壊などがある人（所得条件あり）</p> <p>返済期間10年。当初3年間は無利子</p>
<p>数か月後</p> <p>（善後金・災害弔慰金も）</p> <p>仮設住宅 （災害救助法）</p> <p>原則2年制 （特定被災者適用なら延長可能性も） 家賃無料 （光熱費は負担必要）</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>居住できる家がなく自分の力で住宅を確保できない人（半壊でも入居可能性あり）</p> <p>入居に所得条件あるも運用は自治体で様々</p>	<p>公費解体 （環境省の制度）</p> <p>建物を無償で解体 （家財と一体の浄化槽は対象可能性あり。建物は地面の上のみ解体）</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>特例適用なら、半壊以上の家屋の所有者（2階建かつ10m以下等一定の基準も対象）</p> <p>所得条件なし、3階建以上のアパートや、倉庫などは要相談</p>	<p>雑損控除 （災害減免法も）</p> <p>その年の所得の10%を超える部分の損害額が所得控除される等</p>	<p>窓口 誰に</p> <p>税務署に確定申告</p> <p>住宅・家財・車両・お墓などの損害や災害関連費の支出がある人</p> <p>家財の損害額不明でも推定規定あり</p>
<p>その他の制度は？</p> <p>加算支援金 （被災者生活再建支援法）</p> <p>建設・購入で200万円 修理で100万円 民間賃貸借へ50万円</p> <p>※中規模半壊以上の半壊</p>	<p>窓口 自治体</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>基礎支援金ももらった世帯が、住宅再建・修理・賃貸転居をする時（単身は4分3の金額）</p> <p>一度転居して、その後再建・修理した場合でも左の金額でもらえる</p>	<p>被災ローン減免制度 （自然災害ガイドライン）</p> <p>貸付金500万円・家財保険金・各種支援金などを手元に預け、ローンの減免・免除の可能性あり</p> <p>※ブラックリストに載らない</p>	<p>窓口 弁護士に相談を</p> <p>窓口に 誰に</p> <p>災害救助法の災害で住宅ローンの支払が難しくなった人</p> <p>自己破産や返済交渉の前に検討を！</p>	<p>災害復興住宅融資 （リバースモーゲージ）</p> <p>建設・購入・リノベーション 半壊以上の修理の融資 一部増築でもOK</p>	<p>窓口 誰に</p> <p>住宅金融支援機構</p> <p>住宅の修理費用や再建費用を借りたい人</p> <p>60歳以上なら不動産を担保に、利息のみの返済のリバースモーゲージも</p>

アンケート結果

3月16日【報告会&予告会】アンケートについて

▼ 2023年01月22日 「何をどう 大災害に備える?!」

「何をどう 大災害に備える?!」

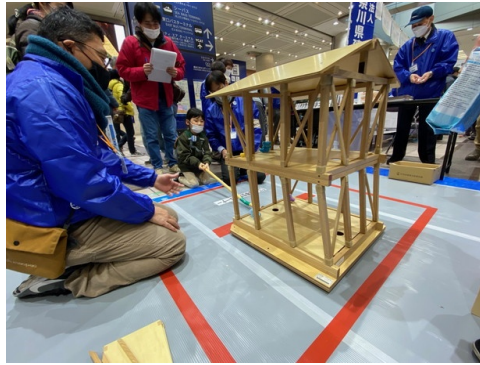
～70周年記念事業・建築士の日 防災イベント～

防災・災害対策委員 湘南支部 小檜山 巖

日時：令和5年1月22日（日）12時～15時

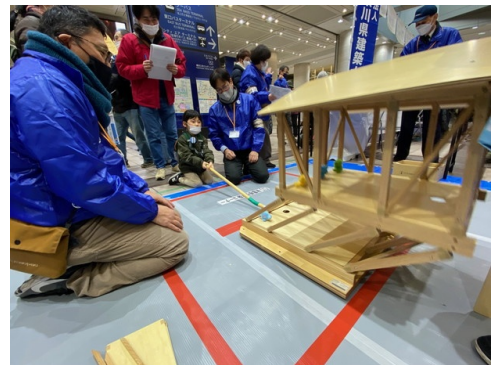
場所：横浜そごう前ホール 新都市プラザ

22日昼過ぎ2時間で200組を超える来場者を迎えて開催しました防災イベントの報告をいたします。



会場を右側から見ると、防災塾・だるまの皆さんによる「防災グッズ・パンフレット」コーナーがあり、防災備品や非常食など、なるほどというアイデアが紹介されていました。その奥は、絶妙な問いとイラストの「〇×クイズコーナー」や「被災者生活再建カードコーナー」にはたくさんの人が集まり、説明を聞きながら、回答しようとチャレンジしていました。中央には今回のイベントの目玉である、耐震実験の実験コーナーがあり、子供たちが並んで実験に参加してくれました。その奥には建築相談コーナーとして、横浜市のアポイド(回避)マップ(=ハザードマップ)とアンケート回収・プレゼントコーナーを置きました。左側には(一社)神奈川県建築安全協会による熊本地震被災地の復旧前後対比写真及び応急危険度判定活動中の写真を展示しました。

耐震実験模型は、2階建て木造住宅の骨組みの模型で、初めは、重い屋根で筋かいを少なくした実験です。少し引くだけで大きな音を立てて、フニャッと倒壊してしまいます。実験者も見学者も通行人も、とてもびっくりします。でも大丈夫。柱、梁の端部にはゴムとマグネットが仕込んであり、簡単に模型は立ち上がります。次は、軽い屋根に替えて、筋かいや壁を追加した実験です。今度は押しても引いても、なかなか倒壊しない。子供たちは、ほっとした表情になり、周りで見守っていた大人たちも納得する。というものでした。



クイズ・アンケートは150部用意しましたが14時頃には残り少なくなり、増刷に慌てました。178人の来場者にアンケートのご協力をいただき、盛況でした。クイズは絶妙な、少し難しい設問のクイズは話題作りにもなりました。「設問1 応急危険度判定は、何のために行うのでしょうか」については、応急危険度判定を知っている人は皆無でしたが、(一社)神奈川県建築安全協会による「熊本地震被害写真・応急危険度判定活動中の写真展示コーナー」で、写真を見ながら目的を理解していただき、様々な対話をしながら、地震防災の必要性の話をすることができました。新築後年数の経った古い家に住む方には耐震診断をお勧めして、アポイドマップの説明コーナーに誘導することができました。



アンケートには「防災を見直すきっかけになり、ためになった。」などの感想が寄せられました。

アンケート結果

1月22日防災イベント アンケート結果

1月22日防災イベント報告



何をどう 大災害に備える?!

応急危険度判定 耐震模型実験 熊本地震写真展示

防災グッズ展示 生活再建カード

防災「どうする? どう考える?」のヒント
知らない大変!生活再建
展示 実験 クイズ グッズ 相談コーナー

建築士の日・防災イベント

日時：令和5年1月22日（日）12時～15時
場所：新都市プラザ（横浜をこ地下2階正面前）



<p>応急危険度判定「って何?」 防災グッズ「何をどうだけ備える?」 耐震診断「耐震補強」は必要? 今日、自宅が地震で半壊し修理代が 1,000万円かかると言われたら?</p>	<p>危険</p>	<p>要注意</p>	<p>調査済</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	-------------------	-------------------

※耐震・災害相談コーナーもあります!! 先着100名様アンケートの協力で後立「防災グッズイベント」



問合せ先：(一社)神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 ☎045-201-1284

主催：(一社)神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会
協力：(一財)神奈川県建築安全協会
後援：神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会
(公社)かながわ住まいまちづくり協会
防災塾 たるま ・ QQ防災クラブ

未来へ。 (一社)神奈川県建築士会
創立70周年記念事業
これからも、地域社会の発展に貢献していきます。

▼ 2022年11月22日 (一社) 神奈川県建築士会 創立70周年
記念誌

「これまでの10年」「これからの10年」

令和4年11月22日（火）記念式典・記念講演会開催

(一社)神奈川県建築士会は、昭和27年2月2日に設立し、このたび創立70周年を迎えました。これまでの70年の活動を礎に、71年目以降の「未来へ。」をスローガンに掲げ、70周年記念事業として、令和4年11月22日（火）に、記念式典・記念講演会を開催し、記念誌の発行をいたしました。

記念誌に寄稿しました防災・災害対策委員会の「これまでの10年」「これからの10年」を紹介いたします。

→ 「これまでの10年」「これからの10年」



▼ 2022年10月14日

第64回建築士会全国大会あきた大会「防災まちづくりセッション」にて

2022年10月14日第64回建築士会全国大会「あきた大会」が開催され、徳島士会、岡山士会と並び、神奈川県建築士会防災・災害対策委員会の河原委員長が神奈川県の「災害対応マニュアル作成の経緯と防災・災害対策委員会活動」について発表をいたしました。

防災まちづくりセッション

- 1.被災地住宅相談・災害時支援要請対応マニュアル
- 2.被災者生活再建支援制度と支援活動の課題

防災・災害対策委員会 河原 典子

徳島士会、岡山士会と並び、神奈川士会の災害対応マニュアル作成の経緯と防災・災害対策委員会活動について発表をいたしました。